丹波市 地域おこし協力隊

地域おこし協力隊の活動を報告します

丹波市に関わる人を豊かに

清水 健矢（けんや）さん vol.44

経歴：大阪府出身。㈱ソフトバンク退職後、WEB 制作と飲食店を経営。丹波市に移住後、交流人口の増加に取り組む。
任期：令和元年７月～

丹波市に移住して約２年になる、清水です。丹波市に関わる人を増やす「交流人口増加」をミッションに、日々協力隊の活動に励んでいます。また、丹波市に関わる人を増やすだけではなく、関わる人の人生が豊かになるような仕組みづくりを考えています。

例えば、観光ポータルサイト「Tamba Style」の企画・運営をしていますが、このサイトではただ単に、店の紹介や観光情報を提供するのではなく、市内に住む人にフォーカスを当てて、その人に会いに行ってみたくなるようなサイト作りを意識しています。実績として、４月は閲覧数が１万回を超え、丹波市で影響力のある観光情報サイトの１つになっています。

また、観光客だけではなく、市民の方にも少しずつ認知され、市内にこんな魅力的なお店があったんだとの声が聞こえてきています。地元の魅力を再発見してもらい、地元にさらに誇りを持っていただければ幸いです。

協力隊としての任期は残り１年となりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大という大きな障壁を乗り越えつつ、状況を判断して現在することができる最善の策を講じたいと考えています。

観光ポータルサイト「Tamba Style」

市長・林時彦の

時を駆ける

みんなで家庭ごみ減量チャレンジ！

毎月広報たんばに掲載している「みんなで家庭ごみ減量チャレンジ！」をご覧いただいていますか。

ごみの減量について意識いただけるように、１人１日当たりの排出量の目標値と、現状の排出量をグラフで表しています。

丹波市のごみ排出量は年々増加しており、令和２年度は市クリーンセンターで、約１万２千９００トンの燃やすごみを処分しました。また、現在、丹波篠山市で処分している、年間約２千３００トンの山南地域の燃やすごみは、令和９年４月から市クリーンセンターで受け入れることになっています。

市クリーンセンターの焼却処理能力は年間約１万３千０００トンで、受け入れには約２千２００トンの減量が必要な状態です。

燃やすごみを減量するには、プラスチック系ごみや雑がみ類、剪定（せんてい）枝などを分別する方法があります。市では、まずプラスチック系ごみの分別強化から始めます。

来月から、プラスチック系ごみ袋の値段を、大袋は50円から20円に、中袋は30円から15円に値下げします。

さらに令和４年４月からは、県内一高いとされる、燃やすごみ袋の半額化を目指します。

ごみの分別にご協力いただき、市民の皆さん一丸となって「みんなで家庭ごみ減量チャレンジ！」に取り組みましょう。

丹波市長　林　時彦

令和３年５月号広報たんばではごみの減量について特集をしています